



平成 17 年 12 月期 第 1 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17 年 5 月 13 日

上場会社名 片倉工業株式会社

（コード番号：3001 東証・大証第 1 部）

（URL <http://www.katakura.co.jp>）

代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 岩本 謙三

問合せ先責任者 役職名 経 理 部 長 氏名 山本 純一

TEL (03) 3281-2471

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

法人税等の計上基準については、一部簡便的な手続を採用しております。

その他影響額が僅少なものについても、簡便的な手続を採用しております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成 17 年 12 月期第 1 四半期財務・業績の概況（平成 17 年 1 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 12 月期第 1 四半期	12,920	5.0	704	-	684	-	392	-
16 年 12 月期第 1 四半期	12,302	-	-	-	-	-	-	-
(参考)16 年 12 月期	49,045		3,613		3,703		959	

	1 株 当 た り 四半期(当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
17 年 12 月期第 1 四半期	11.29	11.20
16 年 12 月期第 1 四半期	-	-
(参考)16 年 12 月期	27.05	26.89

(注) 売上高におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。
前年の四半期実績は、売上高のみの開示であったため、売上高以外の前年同四半期実績及び増減率は記載しておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期におけるわが国経済は、輸出の伸びが鈍化しているものの、設備投資が企業収益の改善を受け増加し、個人消費も雇用環境の改善などにより持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかながらも回復基調を維持する状況で推移いたしました。

このような環境の中で当社グループは、各事業領域での売上拡大を目指し、積極的な販売活動を展開してまいりましたが、当第 1 四半期の売上高は、繊維・サービス事業での売上の伸び悩みにより 12.9 億 20 百万円（前年同期比 5%増）と当初の予想を僅かながら下回りました。

損益面については、コスト節減など効率的運営に努めた結果、経常利益 6 億 84 百万円、四半期純利益 3 億 92 百万円と順調に推移いたしました。

営業の概況を事業別に申し上げますと、次のとおりであります。

【繊維事業】

肌着・靴下等の衣料品分野は、ワンタッチ肌着等の機能性インナーやカジュアルインナーは順調に推移いたしました。吸汗速乾等の高機能素材インナーを中心とした春夏物商品が天候不順により、またパニティストッキングがパンツスタイルの台頭により、それぞれ伸び悩みました。

この結果、売上高は 17 億 68 百万円（前年同期比 4.7%減）、営業損益は 17 百万円の損失となりました。

【非繊維の製造事業】

医療用医薬品事業は、昨年4月の薬価の引下げ(業界平均約4.2%)の影響が残りましたものの、循環器領域に特化した研究開発や営業活動を積極的に展開し、当第1四半期はほぼ予定通りに推移いたしました。

なお、第1四半期は例年得意先の販売・在庫政策等の影響により売上、利益ともに低調に推移いたします。

消防ポンプ自動車関連は、国や地方自治体の厳しい財政状態が続く中、需要動向は低迷し、受注競争は更に厳しい状況で推移いたしました。

なお、前期はシャシー導入の遅れや郡山の事故への対応などにより生産・販売が遅れておりましたため、当第1四半期に生産・販売が極度に集中し、例年に比べ売上が増加しております。

この結果、売上高は80億43百万円(前年同期比5.8%増)、営業利益は5億32百万円となりました。

【サービス事業】

小売事業は、商圏内での過当競争が続く、カーショップを除くホームセンターの全店舗で売上が伸び悩みました。

特にホームセンターの主力部門であるハウジング・園芸部門の販売不振により、苦戦を強いられております。

なお、昨年9月に開業いたしました「コクーン新都心」(埼玉県さいたま市大宮区)は、積極的な販売促進活動を展開し、競合施設との差別化を図ることで好調に推移しております。

この結果、売上高は30億23百万円(前年同期比9.4%増)、営業利益は4億39百万円となりました。

【その他の事業】

「遺伝子組換えタンパク質の生産サービス」は、順調に推移いたしましたが、訪花昆虫、釣り餌が天候不順により売上が伸び悩みました。

この結果、売上高は85百万円、営業損益は31百万円の損失となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総 資 産	株 主 資 本	株主資本比率	1 株 当 たり 株 主 資 本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年12月期第1四半期	109,353	34,671	31.7	998.20
16年12月期第1四半期	-	-	-	-
(参考)16年12月期	110,239	34,274	31.1	987.47

(注) 前年の四半期実績は、売上高のみの開示であったため、前年同四半期の財政状態については記載しておりません。

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ8億86百万円減少の1,093億53百万円となりました。

流動資産は、CP現先の償還や売上債権の回収による現金及び預金の増加33億75百万円がありました一方で、受取手形及び売掛金の減少11億68百万円、主として短期貸付金の減少によるその他の流動資産の減少20億17百万円、主に仕掛品の減少による棚卸資産の減少7億46百万円により、前連結会計年度に比べ5億60百万円減少の580億18百万円となりました。

固定資産は、保有株式の株価上昇による投資有価証券の増加1億54百万円がありました。償却等による有形固定資産の減少4億96百万円により、前連結会計年度に比べ3億25百万円減少の513億35百万円となりました。

流動負債は、昨年9月に開業いたしました「コクーン新都心」の建設代金の手形が決済され設備関係支払手形が26億57百万円減少したため、前連結会計年度に比べ29億53百万円減少の203億75百万円となりました。

固定負債は、主に「コクーン新都心」建設に伴う長期の借入れ19億60百万円を実行し長期借入金が19億86百万円増加したため、前連結会計年度に比べ17億53百万円増加の369億18百万円となりました。

なお、「コクーン新都心」建設に関連する長期の借入れ56億円については、本年2月で全て完了

いたしました。

純資産は、主に保有株式の株価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加2億70百万円により、前連結会計年度に比べ3億96百万円増加の346億71百万円となりました。

3. 平成17年12月期の連結業績予想（平成17年1月1日～平成17年12月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	25,000	1,600	600
通期	51,000	3,900	1,400

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 40円30銭

〔業績予想に関する定性的情報〕

平成17年2月25日公表の業績予想に変更はありません。

上記の業績予想数値は、発表日現在において入手可能なものであり、不確実な要因に係る仮定を前提としております。したがって、実際の業績は、様々な要因の変化によって、記載している内容と大きく異なる結果となる可能性がありますので、ご承知おきください。

(添付資料)

要約四半期連結貸借対照表

区 分	当第1四半期末		(参考) 前連結会計年度	
	平成17年 3月31日		平成16年12月31日	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
(資産の部)				
I 流動資産				
1. 現金及び預金	26,017		22,642	
2. 受取手形及び売掛金	14,614		15,782	
3. 有価証券	8,589		8,589	
4. 棚卸資産	6,154		6,901	
5. その他	2,670		4,687	
貸倒引当金	△ 28		△ 23	
流動資産合計	58,018	53.1	58,579	53.1
II 固定資産				
1. 有形固定資産				
(1) 建物及び構築物	22,679		23,095	
(2) 機械装置及び運搬具	1,408		1,327	
(3) 土地	6,473		6,473	
(4) その他	747		910	
有形固定資産合計	31,309	28.6	31,805	28.9
2. 無形固定資産	208	0.2	197	0.2
3. 投資その他の資産				
(1) 投資有価証券	18,268		18,114	
(2) その他	1,669		1,676	
貸倒引当金	△ 120		△ 133	
投資その他の資産合計	19,816	18.1	19,657	17.8
固定資産合計	51,335	46.9	51,660	46.9
資産合計	109,353	100.0	110,239	100.0

区 分	当第1四半期末		(参考) 前連結会計年度	
	平成17年 3月31日		平成16年12月31日	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
(負債の部)				
I 流動負債				
1. 支払手形及び買掛金	7,343		7,502	
2. 短期借入金	4,020		3,884	
3. 1年以内返済予定長期借入金	322		298	
4. 設備関係支払手形	895		3,553	
5. その他	7,791		8,090	
流動負債合計	20,375	18.6	23,329	21.2
II 固定負債				
1. 長期借入金	5,328		3,342	
2. 繰延税金負債	5,980		5,920	
3. 退職給付引当金	6,182		6,258	
4. 役員退職慰労引当金	656		636	
5. 土壌汚染処理損失引当金	255		389	
6. 預り保証金・敷金	18,151		18,224	
7. その他	363		394	
固定負債合計	36,918	33.8	35,165	31.9
負債合計	57,294	52.4	58,494	53.1
(少数株主持分)				
少数株主持分	17,387	15.9	17,470	15.8
(資本の部)				
I 資本金	1,750	1.6	1,750	1.6
II 資本剰余金	265	0.3	265	0.3
III 利益剰余金	25,723	23.5	25,614	23.2
IV その他有価証券評価差額金	7,117	6.5	6,847	6.2
V 自己株式	△ 185	△ 0.2	△ 203	△ 0.2
資本合計	34,671	31.7	34,274	31.1
負債、少数株主持分及び資本合計	109,353	100.0	110,239	100.0

要約四半期連結損益計算書

区 分	当第1四半期		(参考) 前連結会計年度	
	自 平成17年 1月 1日 至 平成17年 3月31日		自 平成16年 1月 1日 至 平成16年 12月31日	
	金額(百万円)	百分比(%)	金額(百万円)	百分比(%)
I 売上高	12,920	100.0	49,045	100.0
II 売上原価	8,745	67.7	30,798	62.8
売上総利益	4,175	32.3	18,247	37.2
III 販売費及び一般管理費	3,471	26.9	14,633	29.8
営業利益	704	5.4	3,613	7.4
IV 営業外収益				
1. 受取利息	4		23	
2. 受取配当金	8		163	
3. 持分法による投資利益	0		—	
4. 雑収入	75		319	
営業外収益合計	88	0.7	506	1.0
V 営業外費用				
1. 支払利息	65		129	
2. 休止事業所経費等	23		239	
3. 持分法による投資損失	—		0	
4. 雑損失	18		47	
営業外費用合計	108	0.8	416	0.8
経常利益	684	5.3	3,703	7.6
VI 特別利益				
1. 固定資産売却益	0		81	
2. 投資有価証券売却益	3		167	
3. 貸倒引当金戻入益	4		10	
4. その他	—		31	
特別利益合計	8	0.0	290	0.6
VII 特別損失				
1. 固定資産処分損	7		183	
2. その他	7		148	
特別損失合計	14	0.1	331	0.7
税金等調整前四半期(当期)純利益	677	5.2	3,661	7.5
法人税、住民税及び事業税	262		1,860	
法人税等調整額	△ 65		124	
少数株主利益	89		716	
四半期(当期)純利益	392	3.0	959	2.0

セグメント情報

1. 事業の種類別セグメント情報

	当第1四半期 (自平成17年1月1日 至平成17年3月31日)						
	繊維事業 (百万円)	非繊維の 製造事業 (百万円)	サービス 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消 去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	1,768	8,043	3,023	85	12,920	-	12,920
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	1	-	92	-	93	(93)	-
計	1,770	8,043	3,115	85	13,014	(93)	12,920
営業費用	1,787	7,511	2,675	117	12,091	124	12,216
営業利益又は営業損失()	17	532	439	31	922	(218)	704

(注) 1 事業区分の方法は、製品・商品等の種類・性質と事業形態を考慮して区分しております。

2 各事業の製商品と事業内容

繊維事業.....各種絹製品、ファンデーション用生地、靴下、メリヤス肌着、ピニロン繊維、ブランドライセンス業

非繊維の製造事業...自動車部品、工業用計器、農業用機械、医療用医薬品、消防ポンプ車、石油製品の輸出入販売等

サービス事業.....ショッピングセンター、ゴルフ練習場、ホームセンター、カーショップ、ビル管理サービス業、不動産業等

その他の事業.....釣り餌、訪花昆虫、遺伝子組換えタンパク質の生産サービス等

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は171百万円であり、その主なものは、親会社の総務・経理・人事等で発生する管理部門に係る費用であります。

(参考)

	前連結会計年度 (自平成16年1月1日 至平成16年12月31日)						
	繊維事業 (百万円)	非繊維の 製造事業 (百万円)	サービス 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消 去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	7,948	28,360	12,375	360	49,045	-	49,045
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	15	-	365	-	380	(380)	-
計	7,964	28,360	12,740	360	49,425	(380)	49,045
営業費用	7,793	25,137	11,124	506	44,562	869	45,431
営業利益又は営業損失()	170	3,222	1,616	145	4,863	(1,250)	3,613

(注) 1 事業区分の方法は、製品・商品等の種類・性質と事業形態を考慮して区分しております。

2 各事業の製商品と事業内容

繊維事業.....各種絹製品、ファンデーション用生地、靴下、メリヤス肌着、ピニロン繊維、ブランドライセンス業

非繊維の製造事業...自動車部品、工業用計器、農業用機械、医療用医薬品、消防ポンプ車、石油製品の輸出入販売等

サービス事業.....ショッピングセンター、ゴルフ練習場、ホームセンター、カーショップ、ビル管理サービス業、不動産業等

その他の事業.....釣り餌、訪花昆虫等

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は1,067百万円であり、その主なものは、親会社の総務・経理・人事等で発生する管理部門に係る費用であります。

2. 所在地別セグメント情報

当第1四半期及び前連結会計年度については、本国以外に所在する会社及び支店はありません。

3. 海外売上高

当第1四半期及び前連結会計年度については、海外売上高は、連結売上高に対する割合が僅少のため、記載を省略しております。